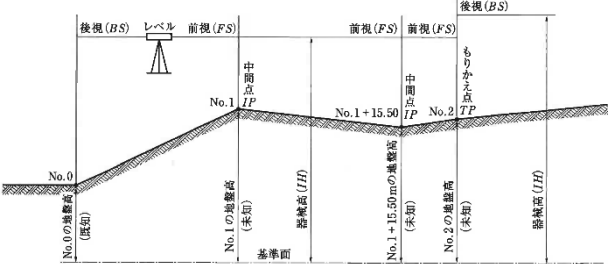
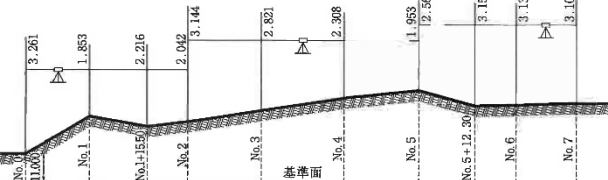
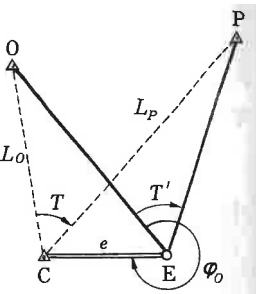
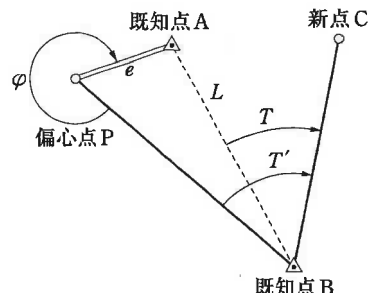
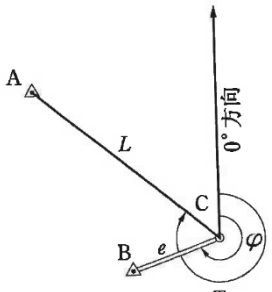
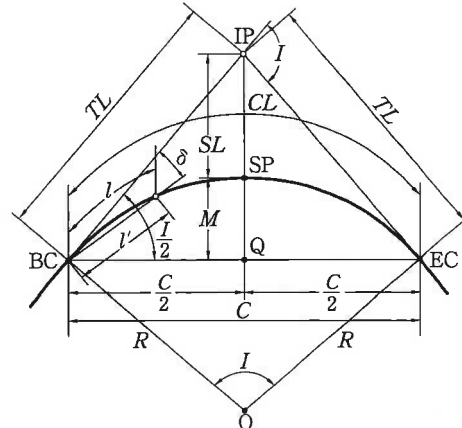
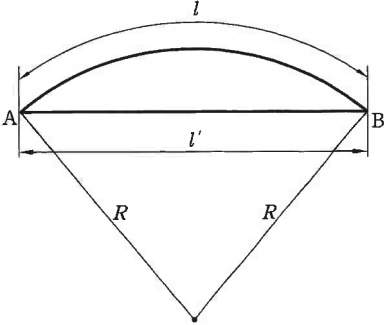


## 実教出版「First Stage シリーズ 新訂測量入門」(第1刷の変更点)

第1刷から第2刷以降に増刷するにあたり、本書では下記の通り変更がございます。

箇所	1刷	2刷
p.4 目次 p.84 3項タイトル	細点部の測定	細部点の測定
p.18 6行目	1, 2の作業	2と同様の作業
p.45 6行目	測定する機会	測定する器械
p.88 19行目	0.1 mm × M 以上であればよい。	0.1 mm × M 以内であればよい。
p.108 図 19		<p>(もりかえ点 TP の下にある「No.1+15.50」を中間点 IP の左肩上に移動する。ほか説明を適切な位置に移動)</p> 
p.109 表 4		<p>(「3.155」を左の青線までずらす)</p> 
p.118 表 17	B~1	B~BM1
p.131 表 4 の倍面積の式	… $Y_{n-1} - Y_{n+2}$	… $Y_{n-1} - Y_{n+1}$
p.164 図 38		<p>(<math>T</math> と <math>T'</math> の範囲を示す矢印の左側の矢頭のみを削除)</p> 

<p>p.165 図 40</p>		<p>(<math>e</math>の範囲を示す矢印を削除)</p>  <p>既知点A, 新点C, 既知点B, 偏心点P, <math>\varphi</math>, <math>L</math>, <math>T</math>, <math>T'</math></p>								
<p>p.165 5行目</p>	<p>ただし、両点とも…</p>	<p>ただし、既知点Aの標高は<math>H_A=200.00\text{m}</math>、AB間の斜距離は<math>L=3\,000.00\text{m}</math>、また両点とも…</p>								
<p>p.165 表 18</p>	<p>左の表に差し替える</p>	<table border="1"> <tr> <td>既知点Aにおける観測</td> <td>新点Bにおける観測</td> </tr> <tr> <td>鉛直角 <math>\alpha_A = -0^\circ 20' 40''</math></td> <td>鉛直角 <math>\alpha_B = +0^\circ 22' 50''</math></td> </tr> <tr> <td>器械高 <math>i_A = 1.50\text{m}</math></td> <td>器械高 <math>i_B = 1.50\text{m}</math></td> </tr> <tr> <td>測標高 <math>f_B = 1.60\text{m}</math></td> <td>測標高 <math>f_A = 1.60\text{m}</math></td> </tr> </table>	既知点Aにおける観測	新点Bにおける観測	鉛直角 $\alpha_A = -0^\circ 20' 40''$	鉛直角 $\alpha_B = +0^\circ 22' 50''$	器械高 $i_A = 1.50\text{m}$	器械高 $i_B = 1.50\text{m}$	測標高 $f_B = 1.60\text{m}$	測標高 $f_A = 1.60\text{m}$
既知点Aにおける観測	新点Bにおける観測									
鉛直角 $\alpha_A = -0^\circ 20' 40''$	鉛直角 $\alpha_B = +0^\circ 22' 50''$									
器械高 $i_A = 1.50\text{m}$	器械高 $i_B = 1.50\text{m}$									
測標高 $f_B = 1.60\text{m}$	測標高 $f_A = 1.60\text{m}$									
<p>p.166 図 42</p>		<p>(<math>e</math>の範囲を示す矢印を削除)</p>  <p>A, B, C, <math>e</math>, <math>L</math>, <math>T</math>, <math>0^\circ</math>方向</p>								
<p>p.185 表 8</p>		<p>(別紙の表に差し替え)</p>								
<p>p.208 図 22</p>		<p>(中央の上向き矢印を削除)</p>								
<p>p.216 図 6 の図の矢印と「曲線の中点」の英字</p>	<p>scant point</p>	<p>(<math>I</math>と<math>I'</math>の範囲の矢印を入れ、<math>CL</math>の範囲をBCからECに変更する)</p>  <p>TL, CL, SP, BC, EC, Q, R, O, <math>I</math>, <math>I'</math>, <math>l</math>, <math>l'</math>, <math>\frac{I}{2}</math>, <math>\delta</math>, <math>SL</math>, <math>M</math>, <math>C</math>, <math>\frac{C}{2}</math></p> <p>scant point</p>								

p.222 図 11		<p>(<math>l</math>の範囲を修正)</p> 
p.285 索引	前方公会法	前方交会法

以上

▼表 8 1/25000 地形図図式の記号

	真幅道路 25m以上(4車線以上)	◎	{市役所 東京都の区役所		高塔																				
						記号道路 19.5m~25m(4車線以上)	○	{町村役場 政令指定都市の区役所		記念碑															
											13m~19.5m(2車線)	○	官公署(特定の記号のないもの)		煙突										
																5.5m~13m(2車線)	○	裁判所		電波塔					
																					3m~5.5m(1車線)	△	税務署		油井・ガス井
	1m未満(徒歩道)	⊗	消防署		風車																				
						国道等	×	交番		坑口(洞口)															
											庭園路	Y	消防署		城跡										
																有料道路および料金所	⊕	保健所	⋯	{史跡・名勝・ 天然記念物					
																					普通鉄道	⊕	郵便局	⊥	墓地
	特殊鉄道	✕	小・中学校	也	温泉																				
						路面の鉄道	⊗	高等学校	X	採鉱地															
											索道(リフト等)	⊕	病院	⊥	漁港										
																道路橋および鉄道橋	⊕	図書館	⊥	普通建物					
																					土がけ(切取部)	⊕	図書館	□	堅ろう建物
	岩がけ	⊕	寺院	▨	無壁舎																				
						送電線	⊕	田	↓ ↓ ↓	ハイマツ地															
											石段	⊕	畑	↓ ↓ ↓	竹林										
																都府県界	⊕	果樹園	↑ ↑ ↑	笹地					
																					北海道総合振興局・振興局界	⊕	茶畑	↑ ↑ ↑	ヤシ科林
	△ 52.6 三角点	⊕	針葉樹林	↑ ↑ ↑																					
						△ 18.2 電子基準点	⊕																		
											□ 21.7 水準点	⊕													
																・ 124.7 標高点	⊕								
																					-125- 水面標高	⊕			

\* 1 真幅道路とは、幅員 19.5 m 以上の道路をいい、幅員を図上幅 0.1 mm 単位で縮尺化して表示する。

\* 2 記号道路とは、幅員 19.5 m 未満の道路をいい、幅員に応じた一定の記号幅員により区分する。

(「平成 25 年 2 万 5 千分 1 地形図図式」より抜粋)